

為替週間展望 = ドル円は 108 円台を中心とするもみ合いか

[6 月 1 0 日からの 1 週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6 月 3 日 ~ 6 月 7 日				
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比	
ドル・円	108.37	108.56(6)	107.82(5)	108.42	+0.13	
ユーロ・ドル	1.1167	1.1309(6)	1.1155(3)	1.1266	+0.0097	
=====						
国内株・金利 / 米国株・金利						
	終 値		前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	20,884.71	+283.52	日本10年債利回り	-0.115	-0.021	
ダウ平均株価	25,720.66	+905.62	米10年債利回り	2.117	-0.007	
=====						

< 来週の主要経済統計等 >

- 10日 日本第1四半期国内総生産 (GDP) 2次速報
日本4月経常収支
中国5月貿易収支
英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
- 11日 英5月雇用統計
米5月生産者物価指数
- 12日 日本4月機械受注高
中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数
米MBA住宅ローン申請件数
米5月消費者物価指数
米5月財政収支
- 13日 豪5月雇用統計
独5月消費者物価指数確報値
スイス5月生産者・輸入価格
スイス銀行 (SNB) 政策金利
ユーロ圏4月鉱工業生産指数
米5月輸入価格指数
米新規失業保険申請件数
- 14日 中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高
日本4月鉱工業生産指数確報値
米5月小売売上高
米5月鉱工業生産・設備稼働率
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米中の対立の長期化やトランプ発言への警戒感から、ドル円は上値の重い展開が続くとみられるとした。イタリアの財政問題への警戒感、ドイツをはじめとする経済指標の悪化に伴う景気減速懸念から、ユーロドルは軟調な推移が見込まれるとした。

【米国はメキシコからの輸入品に関税を課すと表明】

5月31日にトランプ米大統領がメキシコから不法移民の流入対策として、同国からのすべての輸入品に6月10日から5%の関税を課すと発表した。貿易摩擦が激化するとの警戒感から、この日はNYダウが354ドル安となり、ドル円は108.28円近辺までドル売り円買いが進んだ。

米中対立の長期化への警戒感や貿易摩擦が激化すると懸念から、リスク回避の円買いが進みやすくなっている。さらに米長期金利が低下傾向にあり、ドル円の上値を抑える要因となっている。米10年物国債利回りは、5月31日に米株安などリスク回避の動きから2.13%台まで低下した。6月3日には、ブロード・セントルイス連銀総裁が、近く利下げが適切になる可能性に言及したことで2.10%を割り込み、2.07%前後まで低下した。ドル売りの動きからドル円は一時107.88前後まで円高に振れた。

4日に米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は、貿易摩擦の激化に警戒感を示すとともに「貿易動向による影響を注意深く観察している。景気拡大の維持では適切に行動する」と発言したことが利下げを示唆したと受け止められた。これを受けてNYダウは512ドル高と急伸した。ただ、利下げの可能性が示唆されたことで、ドル円は108円台を回復したものの上値は重かった。

米国では景気の先行きに不透明感が台頭しつつあり、利下げへの期待感も高まりつつある。CME FEDWATCHによると7月のFOMCでの利下げ確率は、5月中は20%前後だったものが、6月6日には55%前後まで上昇している。市場では年内に2回利下げするとの見方も台頭しつつある。

米中対立や貿易摩擦の激化、さらに米国での利下げ見通しの対応などからドル円は上値を抑えられやすくとみられる。米国の利下げ観測は米株高につながるものの、ドル円は大きく上値を伸ばすのは難しくなりそう。トランプ発言や貿易摩擦関連のニュースに左右されやすい動きが見込まれる中、ドル円は上値の重い展開となり、108円台を中心とするみ合いか。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～109.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、10日に日本第1四半期国内総生産（GDP）2次速報、日本4月経常収支、11日に米5月生産者物価指数、12日に日本4月機械受注高、米MBA住宅ローン申請件数、米5月消費者物価指数、米5月財政収支、13日に米5月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数、14日に日本4月鉱工業生産指数確報値、米5月小売売上高、米5月鉱工業生産・設備稼働率、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは1.13ドル超では戻り一服か】

6日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、政策金利を少なくとも2020年前半までは据え置くことを決定した。なお、従来は「2019年末までは据え置き」としていた。利上げは早くとも来年夏以降となり、利上げ時期を先送りした。

ドラギECB総裁は記者会見で、「相当な規模の金融緩和が必要」「世界経済の逆風が引き続き重石」「地政学、保護主義、新興国市場などへの不透明感がセンチメントに影響」などと述べた。ただ、「経済見通しの大幅な悪化は全く見込んでいない」「経済指標は悪くはない」「リセッションやデフレに陥る可能性は低い」と楽観的な見解を示したことで、利下げへの期待感が後退した。これを受けてユーロドルは一時1.13ドル台に乗せるなど、堅調な推移を見せた。

ECBによる利下げ期待の後退やドルの弱さなどをを受けて、ユーロドルは堅調な推移を見せている。ただ、ユーロ圏の経済指標は4月の小売売上高や生産者物価指数が下振れするなど弱いものが多く、イタリアの財政問題も懸念される中で、ユーロそのものを積極的に買い進む材料に乏しい。このため、ユーロドルは1.13ドル超では上値を抑えられやすくなるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1200～1.1350ドル。

【豪中銀（RBA）は利下げに動く】

4日に豪中銀（RBA）は政策金利を0.25%引き下げて1.25%とした。利下げは市場の予想通りだったことで、利下げ発表後の豪ドルは小動きとなった。声明では労働市場に注目する姿勢を改めて示した。一段の利下げの示唆はなかった。その後はドルの弱さもあり、豪ドル/米ドルは0.69台前半から0.70近辺まで上昇している。0.70ドル前後では頭打ちとなっており、0.6950～0.7050のレンジ

での推移か。

N Zドルも堅調な推移となっている。N Z中銀総裁補佐が、予見可能な将来に渡り政策金利がおおむね現行水準の近辺にとどまるとの見方が中銀の中心的な見解であると述べたことから、追加利下げ観測が後退している。N Zドル/ドルは目先は底堅い推移となり、0.6550～0.6700ドルのレンジで推移となりそうだ。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、10日に中国5月貿易収支、英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支、11日に英5月雇用統計、12日に中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数、13日に豪5月雇用統計、独5月消費者物価指数確報値、スイス5月生産者・輸入価格、スイス銀行（SNB）政策金利、ユーロ圏4月鉱工業生産指数、14日に中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。